八重山観光MaaS推進事業｜ジョルダン株式会社

2026/03/12

目的：八重山圏域の公共交通を活用した観光周遊促進・整備

- MaaSサービス（周遊券）に観光コンテンツを拡充し、八重山圏域の交通利便性の向上および周遊・滞在・消費等の促進をする。
- 訪日外国人観光客の受入れ体制の整備のため、多言語対応・混雑予測データ等の提供を行い、オーバーツーリズムの解消を図る。
- 乗降データ取得方法のバリエーション追加により、データ取得・分析の汎用性を高め、地域課題の解決策の検討・検証に利活用する。

事業内容：MaaSサービスの拡充・高度化と訪日外国人対応

【交通サービスの高度化】

- BOSS端末を竹富島交通（バス）へ10台新規導入、また西表島交通（バス）の旧端末10台も入替し、二次元コード認証機能を実装。

【モビリティデータの取得・活用】

- ODデータをはじめとする利用データを事業者、自治体へ提供し各種施策の効果検証、課題抽出に利活用。

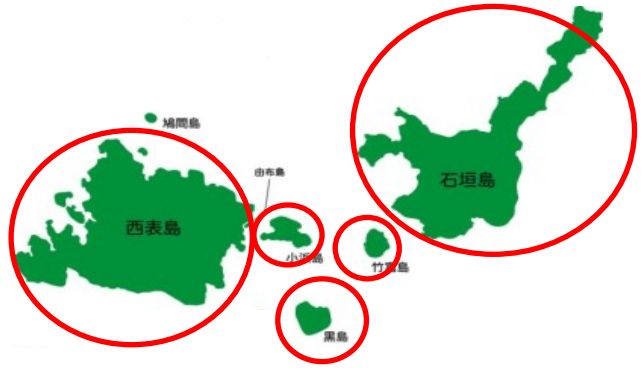
【エンドコンテンツとの連携】

- 観光/交通情報のランディングページの作成・周知広報と、事業者への混雑予測情報の共有、寄付サイトでの周遊券提供を実施。
- スマホ不保持者でも二次元コードでの乗降ができるよう紙媒体、島民カード等に印字された二次元コードを用いた認証対応を実施。
- 周遊券における小浜島、黒島等のレンタサイクル施設や飲食店などのクーポン対象施設の拡充。

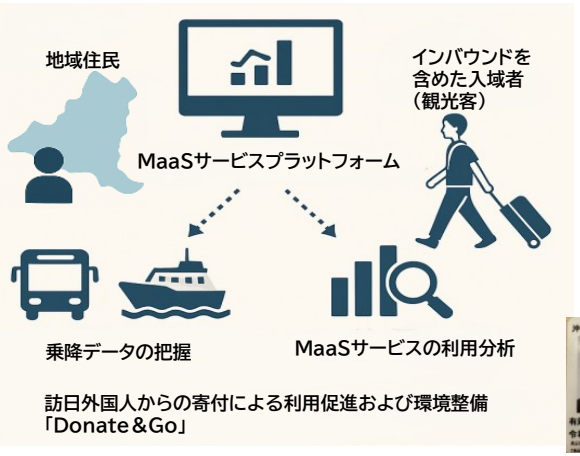
効果

- 課題：従来のチケット認証方法（目検）では、交通事業者の工数負荷が高く、増加傾向にある訪日外国人対応にも苦慮していた。また、観光客にとって現地二次交通の理解が難しかった。
- 効果：本事業により、乗務員の対応工数を削減できた（事業者満足度75%）。また、利用者の満足度においては全体で94.8%得られた。（前年度から2.5ポイント向上）

【実施エリア】



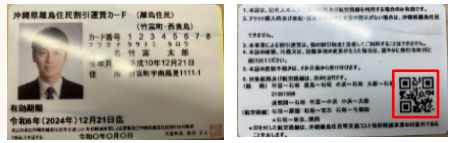
【本事業の取組の全体像】



▼離島アクティビティの拡充



▼島民カード対応



【インバウンド向けランディングページ】



【BOSS端末での認証の様子】



MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	八重山圏域では事業者ごとに異なる多様なモードが存在し、観光客にとって現地2次交通の理解が難しく、公共交通の活用による観光体験の満足度を向上させることで持続可能な公共交通ネットワークの実現が求められている。	周遊フリーパスの拡充と、タッチ決済端末によるQR認証の導入により、スマートフォン一つでのスムーズな2次交通利用を実現。本取組により、観光客の満足度を向上することができた。(今年度94.8%前年比2.5ポイントアップ)
2	訪日外国人の増加に伴う、オーバーツーリズム問題の解決、現地公共交通の混乱抑制、受入れ体制の構築等の環境整備(キャッシュレス対応等)、またそれに見込まれる費用の確保	八重山圏域における観光・交通の留意点等をまとめたLPを多言語(英語、繁体字、簡体字、韓国語)で展開、周知広報した結果、特に台湾向けに効果が見られた。(期間中のアクセス数約17,000PV)また訪日外国人からの寄付の仕組みを構築した。
3	デジタルチケットは利便性が高い一方、スマートフォンを持たない層や島民が利用できない課題があった 。	二次元コードを紙等で出力、また認証できる機能を開発し、スマホ不保持者や島民カード等による公共交通の利用を可能にしたことで、利用者の満足度を全体として94.8%得られた。

KPI

【凡例】 赤字:目標達成　青字:目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	MaaSサービスの拡充	新しいサービスや連携先数	各種会議における議事録等の確認	事業年度末にとりまとめ	6個以上	9個	周遊フリーパス自体定着しており、プロジェクト主旨に賛同を得やすかったため
2	MaaSチケット(周遊券)の満足度	MaaSチケット(周遊券)利用者の満足度	利用者アンケート調査	事業年度末にとりまとめ	93%以上	94.8%	サービス拡充、UI変更による効果(昨年度92.3%から2.5ポイント上昇)
3	MaaSチケット(周遊券)利用者数／チケット売上金額	MaaSチケット(周遊券)利用者数／チケット売上金額	MaaSチケットの利用データの取得	前月分を月次報告	100名/月 500万/年	73名/月 83万/年	利用者数について現地での周知広報の不足により後一押しが足りなかった。売上金額も同様に周知が足りず想定よりも他の交通モード、施設利用券などのオプション購入がされなかった。
4	認証機導入効果	認証機での運用についての満足度	事業者アンケート調査	事業年度末にとりまとめ	60%以上	75%	目検から認証機の移行により、乗務員の対応工数が軽減されたため
5	インバウンド対応	訪日外国人の利用時の混乱抑制効果	事業者へのアンケート調査	事業年度末にとりまとめ	効果があったの回答60%以上	67%	現地交通・観光情報の事前周知広報の結果、利用方法などの理解が進みスムーズに利用がされたため

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.